館報 千代

第２８２号
発行
千代公民館
編集
広報委員会
印刷
有限会社飯田写真印刷

＜千代の人口＞
平成27年８月末日現在
男　856名（＋２）
女　916名
合計 1,772名（＋２）

いいだ人形劇フェスタ千代公演
あっぱれ！千代っ子三年生

八月九日（日）千代公民館でいいだ人形劇フェスタが開催され、千代小三年生と劇団「むう」の公演が行われた。

千代小三年生の劇団名は、「ピカッ！千代っ子元気なかよし10（テン）」。クラス全員で八人なのになぜ10かというと、9は先生、10は観客の皆さん。みんなで喜びを感じて、盛り上がるようにと付けられた。

人形劇に挑戦するのは全員初めてで、荻坪の林厚司さんが作成した台本に子ども達がアレンジして物語を完成した。そして六月から「人形劇団むすび座」の岩井田浩江さんを講師に迎え、人形作りから学んできた。

この日、百二十人の観客を前に、野池神社にまつわる大蛇伝説をアレンジした「ねがいをかなえる　やさしい大じゃ」を、歌を織り交ぜながら、舞台の前と内側を使って元気いっぱいに演じた。

劇団「むう」の島崎薫さんは「四年か五年生と思った。本番になると緊張するものだが、声も出ていたし、緊張している様子もなく、伸び伸びとやりきった」と絶賛していた。岩井田さんも「短い練習期間だったが、日に日に上達していた。子ども達の集中力はすごかった」と感心していた。

八人しかいないクラスだからこそ、常に一人ひとりが主役で、仲良しでなくてはクラスがまとまらないことを、子ども達は自然と身につけている姿を感じた。

三年生の次は名古屋から来た劇団「むう」による「子ぎつねコンと子だぬきポン」。プロ劇団の観客をまき込むテクニックと、心が暖かくなる舞台を楽しんだ。

公演後は、食生活改善推進協議会の皆さんと、三年生の親子で料理教室を行い、作った料理を劇団「むう」の二人と味わいながら交流会を行った。

おもてなしメニューは、五平餅、夏野菜のみそ汁、サケのバター醤油ソテー、寒天入りフルーツポンチ。ボリュームもあり、五平餅のおかわりも出て、みんなおなか一杯に。

食生活改善推進協議会は、減塩やバランス食など食事を通して地域の健康づくりや伝統的食文化の承継などの活動を行っており、代表の森山巳年さんは「子ども達に料理に興味を持ってもらい、大きくなった時に料理を作ることが好きな人になってほしい」、保護者の半崎由香さんは「ゆっくり子どもと料理する時間が取れないので、よい親子の時間でした。子ども達も楽しそうに作ってくれました」と話していた。

万古栃の木ツアーに参加して

千栄小五年　林　智咲

私は、去年に続いて二回目のとちの木ツアーに参加しました。急な下り坂を一時間かけて歩き、とちの木に着きました。すべりそうで足がふるえました。とちの木はでっかくて、十何人の子どもが手をつないで周りを囲みました。そこで休けいして、友達とおかしのこうかんをしました。次は、川の中を歩き、ロープを使ってがけを登りました。うき石もあったので、注意しながら歩きました。水は冷たくて気持ちよかったです。最後は滝に行き、おべん当を食べ、流しそうめんもしました。その後、川遊びもしました。二回目だったけど、前よりすごく楽しく感じました。

千栄小六年　川島悠星

ぼくは、栃の木ツアーに行って、たくさん思い出ができました。二つ紹介します。

一つめは、栃の木を見た時です。去年も行ったけれど、その場に行ったら、すごい大きさで、葉がおい茂り、生命力を感じました。

二つめは、唐沢の滝に着いた時です。滝に近づいたら、水量が多く感動しました。そして、流しそうめんは、とても冷たい川の水で冷えていておいしかったです。でかい岩があって遊んで楽しかったです。この栃の木ツアーに参加できるといいです。

千代小六年　西　勇樹

ぼくは今年で最後の栃の木ツアーにお父さんと参加しました。新井さんの運転する車で行きました。四十分くらい行った所で車を降り、すごく長い階段を下って行きました。地面がぬれていたのですべりそうになりました。

下まで行って休けい場の横にすごく大きい栃の木がありました。栃の木の周りを友達と手をつないで囲んだら十人くらいで円ができました。大きい栃の木の下でお父さんと一緒にクリームパンを半分にして食べていたら飯田ケーブルテレビの人が取材をしてくれました。

休けいも終り冷たい川を歩いて行ったのでくつがビショビショになりました。小さい滝になった所は綱を持って登りました。岩に飛び乗ったらすべったので怖かったです。川を歩くのも終って唐沢の滝の所でお父さんと食べるお昼はいつもよりおいしく感じました。

その後、流しそうめんを食べました。お昼をいっぱい食べたので流しそうめんはあまり食べられなかったけど冷たくておいしかったです。

その後、川で遊びました。水が冷たかったけど友達ともいっぱい遊べたし楽しかったです。大きい岩の上では「ライオンキング」のまねをしたり木下悠君と一緒に写真をとったりしました。家に帰った頃にはつかれてすぐに寝ました。

最後の栃の木ツアーはぼくにとって今までで一番楽しかったし思い出に残ったツアーでした。

第一回 千代野外音楽祭

昨年まで「飯田ストック」として開かれていた音楽イベントが新たに『千代野外音楽祭』とリニューアルし、八月二十三日（日）に千代山村広場で開催された。小学生の太鼓や「二ヶ月間懸命に練習しました」と千代保育園の保育士さんの太鼓など身近な方々の演奏もあった。座席には八十歳を越えた方も見受けられ、普段聴かないジャンルの音楽やTOKARAのダイナミックな和太鼓に、老若男女の境なく目を輝かせて楽しんでいた。

屋台は午後五時頃には全ての商品が売り切れとなる盛況で、「天候次第で商品が残っても困るし、今日のように商品が早く無くなるのも残念だし難しいところです」と商工会の方が悩んでいた。

実行委員長の森山賢治さんは「最後に雨が降ってきたのは残念でしたが、昨年よりさらに沢山の人が来場し楽しんで頂けた様子でありがたかった」と語った。

煙火の夜空に響く音と、美しく輝き開いた光の競演でイベントは幕を閉じられた。

飯田市 次期総合計画策定

現代は全国的な少子高齢化の影響で急激な人口減少時代に入ったと言われている。飯田市も例外ではない。将来的に持続可能な地域をどう構築するか。その問題に対して飯田市は次期総合計画策定を市内全二十地区に求めた。

千代地区の第一回会議は八月十日（月）飯田市総合政策部企画課の清水課長補佐が千代公民館で概略説明を行った。各地区から選任された四十五名が参加した。

第二回目は八月二十一日（金）に五つの分科会に分かれ、それぞれのテーマ毎に十年後、二十年後の千代地区を未来志向で議論しあった。現状の延長線上で将来を語るのではなく目指すべき未来を創造し、その実現のための今を見つめる事である。

第三回は九月八日（火）に行われた。登録人数も五十名を超えた。他地区では十名程度の構成人数と聞き、千代地区の未来に向けての関心の高さは群を抜いている。前回に引き続き分科会毎討議した。内容は多岐に渡る為紙面で紹介出来ないが、実際に参加して体感しては如何だろうか。

万古渓谷 現地調査実施

七月十九日(日)第一回万古渓谷現地調査会が行われた。

この調査会は例年万古渓谷事業を行ってきたが、もう一度見直し、関心のある有志を募っての開催となった。当日は十名程が集まり、出発地点の泰阜二軒屋キャンプ場に着くと、県外からの家族が何組もいた。早速、目的地の『魚止め滝』まで向かった。前日の雨で水量が増していた為、岩場の鎖につかまりながら、更に対岸に渡る為ロープを渡し、足場が滑りやすい中、スリル満点でやっとの思いで魚止め滝に到着した。豪快な滝の水しぶきが爽快であった。今後も調査、補修をしながら、沢渉りツアーの復活に期待したい。

イナズマ

いよいよ私もそういう時期が来た。二人暮らしの実家の父と母が高齢となり、できるだけ毎日仕事の前に顔を見に立ち寄るようにしている。

父は見守りがないと歩行が危険、母は今日の日付と予定を忘れてしまう。

八月三十一日の防災訓練の日の八時過ぎ、父母のことを気にかけながらも、自分は子どもの送りの為、車を運転し実家の近くを通った。招集訓練がおこなわれており雨の中緊張した顔の母が近所の方と一緒に集まっていた。

きっと地域の方が声をかけてくださり、見守って下さったのだろうと感謝の気持ちでいっぱいになった。

先日、飯田市次期総合計画策定に向けた千代地区懇談会に呼んでいただき参加した。

二〇一〇年千代の人口は、一八二二人、二〇一五年は一七八六人、このまま移住者がいなければ、二〇四五年には七八六人に減少してしまう。

これからの人口減少は、規模は昔と同様でも、働く人一人で、子どもと高齢者一人を支える社会になるらしい。

人口が少ないなりの幸せを感じることのできる千代にする為に今どうしたら良いかを話し合っている。

両親のことを考えると心配な毎日が続く。懇談会に参加しながら、自分は何ができるのか学んでいきたいと思う。

やったぞ!! りんごん大賞

八月八日（土）第三十四回飯田りんごんに今年も『千代連』が参加した。まちづくり委員会、千代、千栄保育園児、保護者、職員総勢百四十名が参加した。午後七時から約百三十団体が牧野市長の合図で踊りが開始された。今年は雨の心配もなく参加者の熱気で大変な盛り上がりとなった。千代連はよこねの稲穂の法被で揃えた女性陣、黄色のコスチュームが鮮やかな保育園児の可愛らしい頑張りで途中三回の休憩で水分補給しながら二時間近く踊った。なんと！見事『りんごん大賞』に輝いた。終了後、大賞受賞のセレモニー、取材等大変に盛り上がり夏の夜の良い思い出となった。

野池神社御柱祭だより③

木遣り保存会団結式

九月五日（土）に千代公民館で木遣り保存会の団結式が行われた。この日集まった木遣りは三十名。このうち約三割が今回初めて木遣りに参加する。

会長の北村勝志公民館長から「木遣り無くして御柱無し。木遣りは御柱の花形なので、頑張ってもらいたい」また、副会長の大平宏野池神社総代長からは、「木遣りの責任と任務は重いが、御柱祭成功に向けて、協力をお願いしたい」とあいさつがあった。

この後、木遣りの練習が始まり、リズムと節回しを全員で練習し、最後は一人ひとり木遣りを唄った。

木遣り責任者の北澤勝さんは、「自分たちが楽しまないと御柱祭は成功しない。楽しみながら、御柱祭を盛り上げてほしい」と話していた。

ふるさと竜東の集い

創ろう、竜東ワールド、竜東の未来

七月二十六日（日）、「第四回ふるさと竜東の集い」が、総勢二五〇名近くの参加者があり盛大に開催された。

オープニングでは、来年に開催が迫った御柱木遣りの披露、竜東中学校吹奏楽部の演奏が行なわれ、佐藤健副市長の挨拶をいただいた。

～千代ＩＣ、龍江ＩＣ、飯田東（上久堅）ＩＣ、三遠南信自動車道開通後のふるさと竜東の姿～というテーマでパネラーが、故郷竜東の未来についての想いを発表し、会場からの意見も出された。

分散会では、小学生から年配の方まで一緒になって、それぞれの立場で地域への想いを語り合った。

中学生の牧田康平さんは、「三遠南信やリニアで地域が活性化するメリットはあるが、田舎である事にはかわりなくベッドタウンになるだけなどのデメリットもある事を教えられた」

高校生でパネラーの熊谷尭さんは、「エディターに就きたいが地元では仕事がない。帰って来る必要はないと言ってくれた。しかし長男なので帰って来た方が良いのか、大人の目線でアドバイスをもらえ、考える機会となった」とそれぞれ話していた。

二回目の夏休み児童クラブ

千代しゃくなげの会理事　清水　智（八ノ倉）

今年の夏休みも千代しゃくなげの会では、児童クラブ（学童保育）を実施しました。

飯田市内には22の児童クラブがありますが、その内20は飯田市の運営です。地域で運営しているのは、千代地区だけなのです。このため、実施には様々な苦労があります。特に、職員の確保には毎回悩まされました。特に今回は、夏休み一週間前になっても見つからず、実施そのものが危ぶまれる状況でした。この状況を知った前まちづくり会長の藤本良人さんと、元公民館長の嶋岡一藏さんのお二人に力を貸して頂けることになったのです。そして、この二人の片腕として動いてくれる高校生三人のアルバイトも決まり、無事実施にこぎつけることができました。

さて、この児童クラブ、昨年は12人の児童で運営されたのですが、今夏は倍近い22人の申し込みがありました。（内訳は千代地区15人、千栄地区7人）朝8時半～夕方4時の保育時間ですが、やんか盛りの子どもたちと、一日一緒にいるというのは大変なことです。旧くまさんの家と野外ステージを中心に、一輪車をしたり、流しそうめんをしたり、化石をとったりと、たくさんの思い出を作って、無事終えることができました。スタッフの皆さんには、感謝の思いで一杯です。

心からのおもてなしを大切に

民宿「宮のまえ」

下村で南向き斜面に位置する柏原地籍で民宿「宮のまえ」を営む柏木ちづ子さん清己さん夫妻を訪ねた。和室二室、ゲストルーム、ランチ・カラオケルームを備え、自慢の五右衛門風呂でもてなす民宿である。しかし、女将のちづ子さんは、心を込めた手作り料理と目の前に広がる大自然を心行くまで堪能して頂く事が最大のおもてなしと話す。

奄美大島で生まれ育ち、中学の時東京のマンモス中学に転校、その後東京生活が続くが縁あって下村に嫁いだと云う経歴の持ち主。その経験が今の考え方にも繋がるという。

多くの出会いの中で人が好きになり、その人達を喜ばせたいという想いが十六年前の農家民泊に繋がり、四年前には民宿の認可を取得した。

今一歩ずつ、確実に夢を叶えようとしている。「外国人も多く、言葉が通じない中お互いに分かり合おうする努力が本当に大切な事です」と笑顔で語る。ご主人の清己さんに出会ったからこそ叶えられる夢に仲の良い夫婦を感じた取材であった。

第十一回千栄こども夏祭り

七月十八日（土）千栄小学校で夏祭りが行われた。

本来は校庭で催し物が行われる予定だったが、今年は直前までの雨の影響により体育館で行われた。

六年生六人の劇で開会が宣言され、子ども太鼓、不動太鼓、盆踊りと続いた。

十年ぶりに参加した牧野市長は「第一回千栄こども夏祭りの集合写真は旧庁舎の市長室にずっと飾ってあった。千栄の子ども達が大変元気で嬉しい」と語った。市長は千栄小を考える会の催し物ストラックアウトの始球式をはじめ、最後の花火が打ち上がるまで席を立たなかった。

毎年参加している竜東中学三年生の清水陽睦君、原光希君は「このお祭りは、大人から子どもまで楽しめる。屋台の食べ物が安くてとにかく美味しいし、打上花火が近くて楽しみ」と語った。

メッセージ付の花火が百二十五発打ち上げられ、スターマインで祭りが締めくくられた。

歴史講座　千代の人物伝シリーズ③　遠山杢市（もくいち）

明治二十五年一月十二日千栄毛呂窪遠山今朝太郎、かめの二男として誕生、千栄小学校卒業の後、母校の代用教員を務める。十八歳長野県師範学校第一部入学、卒業後長野市後町小学校訓導に任ぜられる。

師範学校時代より後町小学校教師時代を通して特に外国語を学び原書の翻訳にも取り組む。英語はもとより、フランス語、ドイツ語、ロシア語にも精通したという。

その後文学、思想研究にも打ち込むが、大正四年夏、戸隠へ籠もり独学中著名な哲学者、四宮兼之氏、英文学者、土居光知氏との出会いにより深い感銘を受け、文学的教養追求の道から哲学的思索探求の道を選ぶ。同士と共に研究会を起こし西田博士の論文研究も行っている。

哲学をより研究するため大正六年三月教員を休職し、京都帝大への入学を図らんと帰郷する。しかし同年四月体調を崩し、肋膜炎、肺結核と進み大正六年十一月自宅にて二十六歳の生涯を閉じた。

有為の才能を持ち哲学思想追求の途半ば、病に倒れた若者を惜しみ、友人菅沼知至氏が三百ページ余に及ぶ「遠山杢市遺稿」を著している。

告知板

○十月三日（土）八時十五分
「第十九回　ウォークラリー大会」

○十月六日（火）十九時
「第五回千代地区懇談会」

○十月十八日（日）八時半
「千代地区市民運動会」

○十月二十四日（土）七時半
「千代峠交流会」

○十一月十五日（日）九時
「千代地区文化祭　in千栄小学校」

○十一月二十二日（日）
「野池御柱元木祭」

○十一月二十九日（日）九時
「公民館一斉清掃」

○十一月二十九日（日）十一時半
「ふるさと講演会　in千代公民館
法山同志会　発足～解散～未来」

戸籍の窓

○お誕生

林　愛良（あいら）ちゃん
良樹・まどか　長女
（八ノ倉）

関口　明輝（はるき）くん
輝樹・富士子　次男
（法全寺）